

赤澤日本政府代表による  
大阪・関西万博米国ナショナル・デー  
公式式典スピーチ（仮訳）

御列席の皆様、

本日、ベッセント財務長官、グラス駐日大使、デレマー労働長官、ランドー国務副長官、グレイソン米国パビリオン代表の御臨席の下、アメリカ合衆国のナショナル・デーの式典が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

また、トランプ大統領が、ベッセント長官率いる素晴らしい代表団を派遣いただいたことに、日本政府を代表して、心より感謝申し上げます。

今回の大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げています。世界の人々が、この大阪の地に集い、多様な文化に触れ合いながら、最先端の技術や英知を結集し、「いのち」というテーマに向き合っています。

そのなかで、世界のイノベーションのリーダーである米国のパビリオンは、まさに米国の「偉大さ」を体現しており、世界中の注目を集めています。

半世紀前の1970年に開催された大阪万博では、当時、多くの人々が、「月の石」を一目見ようとアメリカ館に足を運びました。

その「月の石」は、単なる石ではなく、世界最先端の宇宙技術がもたらした人類の「未来」そのものであり、多くの子供たちに「夢」を与える存在となりました。私もそのうちの一人です。私自身も当時行列に並んで実際に見させていただいており、その時抱いたワクワクした気持ちが鮮明に蘇ります。今回、アメリカ館で、「月の石」に再びお目にかかれることを大変嬉しく思います。

また、日本館には、水や生命の起源を解明するための重要な手がかりにもなることが期待される、世界最大級の火星の由来の隕石である「火星の石」が展示されています。

是非、多くの方々に、日本と米国のパビリオンで展示されている、この二つの宇宙の「石」を御覧いただければと思います。

近年、宇宙分野での日米協力は著しい発展を遂げています。米国が主導するアルテミス計画により、日本人の宇宙飛行士が史上はじめて月面に足を踏み入れる未来も、そう遠くはありません。そ

の「大きな一歩 (One Giant Leap)」に、日本、そして世界の多くの子供たちは心を躍らせることでしよう。

皆様、

本年2月、石破総理がトランプ大統領と初めて会談した際、両首脳は、日米関係の新たな黄金時代を追求する決意を示しました。

これは、石破総理とトランプ大統領の力強いリーダーシップのもと、日本と米国が、外交・安保、経済を含むあらゆる面で互いに協力し、ウィン・ウィンな関係を築きながら、世界の平和や繁栄に共に貢献していく。そうした両首脳の決意の表れだと認識しています。

今回の万博を通じて、日米間の交流や相互理解が深まり、固いキズナで結ばれた日米関係の新たな地平が拓かれることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。